



関東ブロック中学校  
社会科教育研究会

会 長 竹原 眞  
編 集 飯島博之  
事務局 町田市立  
堺中学校

〒194-0211  
町田市相原町 752  
Tel 042-771-2348

題字 初代会長  
宮崎 謹一郎



### 会長あいさつ

会 長 竹 原 眞

(東京都江東区立深川第四中学校長)

まず、平成三十年十一月十六日(金) 宇都宮市において第三十六回関東ブロック中学校社会科教育研究大会栃木大会が、参加者数三〇〇を超える盛況であり、多くの成果があったことをご報告するとともに、大会実行委員長 山本伸夫先生をはじめとする栃木県中学校教育研究会社会部の皆様に改めて感謝申し上げます。大会主題「社会を見つめ、社会と関わる力を育む社会科学学習の創造」深い学びの実現を目指して「」を掲げて開催された本研究大会は、「新学習指導要領」が示す教科の目標「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成すること」を具体化するためのアプローチでありま

した。これまでの栃木県の授業実践を継続しつつ、「教師が計画的に複数の立場や意見など社会的現象を様々な角度から捉える多角性を踏まえて授業を設計すること」「生徒が主体的に学習に取り組めるような授業展開を設計すること」で主題に迫り、「ねらいの設定」、「学習内容」、「学習方法・学習形態」の視点で授業作りを行いました。こうした栃木県の研究は、「社会科学学習の目標」に真正面から取り組む研究であると考えます。移行期間一年目である現在、忘れてはならない授業改善の原点でもあります。この栃木大会の研究成果を基に関東ブロック全体の研究の活性化と一層の進展を念願しています。

次に、関東ブロック中学校社会科教育研究会では全国中学校社会科教育研究会とのセミナーを年二回開催しています。社会の教師としての知見を広めることを目的に、諸分野の専門家を

お招きしての研修を行っています。今年度は、八月三日(金) 中央区立銀座中学校にて、文部科学省教科調査官 大森 淳子先生と都立国分寺高校指導教諭 柴田 祥彦先生及び中学校学習指導要領「解説」の作成協力者三名の先生による「新学習指導要領一年目として 現状の課題と小中高の連携」と題したパネルディスカッションを行いました。十二月二十六日(水)には、演題「二十一世紀のライフデザインとグローバルコンピテンシー」関西学院大学客員教授 久木田 純先生によるSDGsが、なぜ必要なのかというご講演をお願いいたしました。今の社会の動きや様々な施策などの背景を改めて学ぶことによつて、広い視野に立つて社会科教育の研究に望むことの大切さを再確認できました。このように、関ブロ中社研が研究の推進だけでなく、一人の社会科教師としての力量を高める場でもあることを願っています。

今後とも、会員の皆様のご協力とご支援をお願いいたします。



# 第三十六回 関ブロ中社研 栃木大会を終えて



栃木大会実行委員長  
栃木県中学校教育研究会社会部会

部会長 山本伸夫

(栃木県宇都宮市立若松原中学校長)

平成最後となる関ブロ中社研を、大谷石、餃子、カクテル等で有名な栃木県宇都宮で、十一月十六日に開催させていただきました。関東各都県から多くの先生方や関係機関の方々にご参加いただき、盛会のうちに終わることができましたことを心より感謝申し上げます。

今大会は、「社会を見つめ、社会と関わる力を育む社会科学習の創造」深い学びの実現を目指して」というテーマで研究を進め、その成果を発表させていただきました。

新学習指導要領は、よりよい社会と幸福な人生を自ら切り拓くための資質・能力の育成を目指しています。栃木県中学校教育研究会社会部会(以下栃中社)では、「社会を見つめ、社会に関わる力」を身に付けさせることが、そのような人間の育成になると考えました。

次に、三つの視点からの授業作りを進めました。まず、「授業を設計する際に、「何ができるようになるのか」というねらいを設定します。次に、ねらいを達成するために「何を学ぶか」という学習内容を吟味し、どのような

見方・考え方を働かせるかを検討します。最後に、学習内容を「どのように学ぶのか」という学習方法・学習形態の検討を行っていきます。そして、小学校からの学びの連続性を考えながら、授業作りを行うことがテーマを達成することになると考えました。

このような研究構想の下、各会場で授業を展開しました。授業終了後に、教師生徒共に満足した顔をしていたことが印象的であり、それが授業の評価にもなっていると考えています。

全ての会場を宇都宮で実施しましたが、過去の大会でも行った「栃木方式」のよさを残し、県内を県南・県央・県北の三ブロックに分けて、ブロックごとに分野の研究を進めるとともに、県内の社会科教員で運営を担当しました。この研究・運営における協体制度は、これからも大切にしていきたいと考えています。

玉川大学教育学部教授 樋口 雅夫先生を講師として、「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」社会科学習の不易と流行」の演題で講演をお願いしました。学習指導要領改訂のポイントや、社会科として変わってはいかないこと(不易)と時代に併せて変えていく

こと(流行)について丁寧の説明していただきました。今後社会科が何をすべきかが明確になった講演でした。

最後になりましたが、長い間ご指導をいただきました文部科学省、宇都宮大学、栃木県教育委員会並びに宇都宮市教育委員会等関係機関の皆様、そして大会開催に当たり温かいご指導・ご支援をいただきました関ブロ中社研会長の竹原 眞先生をはじめ役員・事務局の皆様にお礼を申し上げます。併せて次期開催となる千葉大会のご盛会並びにご成功を祈念しまして、大会終了のご挨拶とさせていただきます。

**わかる! 取り組む!**

**災害と防災** 第19回 学校図書館 出版賞受賞

特色1 災害のしくみから事例、対策まで体系的にわかる!  
①基礎→②事例→③対策 のわかりやすい構成。

特色2 熊本地震など、最新の事例が満載!

特色3 災害を自分ごととしてとらえ、防災に取り組む!

**全5巻** 各分野の専門家が大集合! 第一線で活躍する研究者が解説。

<b>1 地震</b> (鈴木康弘ほか)	<b>2 豪雨・台風</b> (海津正倫ほか)
<b>3 津波</b> (今村文彦ほか)	<b>4 土砂災害・竜巻・豪雪</b> (久保純子ほか)
<b>5 火山</b> (山岡耕春ほか)	

■本体価格 セット 15,000円 / 単品各 3,000円(税別)

**帝国書院** 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-29  
TEL 03-3261-9038 FAX 03-3234-7002

地理的分野に参加して

茨城大学教育学部附属中学校

奥谷大樹

宇都宮市立陽東中学校において、松本尚樹先生と刀麻由里先生がそれぞれ『世界の諸地域 北アメリカ州』と『日本の諸地域 関東地方』の単元の授業実践を行いました。大会主題の「社会を見つめ、社会と関わる力を育む 社会科学習の創造」深い学びの実現を目指して「の実現に向けて、生徒たちが豊富な資料を基に多面的・多角的に考察・表現する授業が展開されました。

松本先生の授業実践では、「アメリカ合衆国南部の人口が増えているのはなぜだろう」という課題に対して、生徒たちが意欲的に取り組んでいる姿が見られました。単元の締めくくりとなる本時では、生徒はこれまでの学びを生かして一人一人の見方・考え方を働かせながら、多種多様な資料を関連付けて課題解決に迫っていきました。資料から読み取ったことを付箋に書き、四人グループに一枚配布されたホワイトボードにそれらを貼り付けながら、地理的事象のつながりを見いだす活動が展開されました。意見交換するために前のめりになる姿が印象的で、資料を通じた対話が非常に充実していました。

刀先生の授業実践では、「北関東自動車道が開通したことによって、地域にどのような変化があったのか？」という課題に対して、生徒たちが「人口」「商業」「工業」「環境」の四

つの視点に分かれて考察を進めました。北関東自動車道は生徒にとって身近な生きた資料であり、資料から読み取ることができると自分たちの生活体験を結び付けながら考えを深めていました。授業の最後に振り返りもしつかり行われ、本時で学んだことを自分の言葉で語る生徒、その言葉を聞き逃すまいとする生徒と、穏やかながらも高め合う学習空間が形成されていました。

二つの授業実践は、単元としての学びの重要性を示していたと思います。両方の授業で、本時以前のワークシートが掲示されていました。また、本時で使用した資料の中には、前時までに一度活用した資料もありました。単元の中で、何を、どのように学ばせるか、どのような資質・能力を身に付けさせるかが明確になっており、単元を通して深い学びが実現されていた実践だったと思います。本時までのワークシートの記述内容や授業中に前時までの学習内容を活用し課題解決に迫っていく生徒の姿、豊富な資料に怯むことなく一つ一つ素早く的確に分析する生徒の姿が、何よりの証拠ではないでしょうか。

関ブロ栃木大会の研究や授業作り、また運営に携われた先生方のご尽力に深く感謝申し上げます。本県にとっても大きな刺激となりました。ありがとうございました。



歴史的分野に参加して

千葉市立若松中学校

河西 麦

平成三十年度の関東ブロック研究大会は、「社会をみつめ、社会と関わる力を育む 社会科学習の創造」深い学びの実現を目指して「を大会主題として実施された。急激に変化する世の中に対して、主体的に関わり、新たな価値観を能動的に生み出していく人間を育成するために、主体性を引き出す教材開発や、他者との関わり合いを重視する授業展開、社会的現象を多様な視点から捉えるための発問の工夫や資料の精選、学習目標に到達させるための体系化された単元構成等、随所に大会主題の実現を目指した工夫がなされていた。私は第一学年歴史的分野の授業を参観した。中世の時代観を捉えさせるために、単元を貫く課題として、「武士はどのように成長したのだろうか」を設定した単元構成であった。武士に着目し、武士のおこりから成長過程を、複数の資料を使って丁寧に捉えさせていた。実際の授業展開では、御成敗式目と北条泰時にスポットを当て、北条泰時の思いや政策の意図に迫ることで、鎌倉時代そのものがどのような時代であったのか考えを練り上げる内容であった。生徒の活発な意見交換の様子から、本時に至るまでの知識・視点の蓄積を感じさせられた。

歴史上の人物の思いや考えに迫る方法は斬新であり、生徒も思考を働かせながら人物に

寄り添い、時代の背景へと考えを深めていった。指導案上の目標であった武家諸法度の制定から武家政権の基盤の確立を読み取ることは多くの生徒が到達していた点にも驚かされた。

また、絵画資料や漫画を活用した資料等、生徒が興味を持ちやすいような工夫が随所に見られた。生徒同士の交流の時間も、単純な教え合い・伝え合い活動だけでなく、意見を戦わせる場面も設定されているなど、多様な関わり合いも感じることができた。

授業後の協議会では、小グループでの意見交換の時間ももたれた。中世の時代的特色を捉えさせるためには、思いや考えに迫ることだけではなく、その考えが生まれた背景や歴史の意義に迫る必要があるのではないかと、という意見には考えさせられるものがあり、私自身も非常に多くの学びを得ることができた。今回の関東ブロック研究大会に参加して、深い教材研究と、ねらいに迫る授業展開の工夫の重要性を改めて感じた。同時に、社会科の奥深さと、面白みを感じることもできた。貴重な学習機会を頂けたことに感謝し、よりよい授業を展開できるように努力していきたい。

公民的分野に参加して

宇都宮大学教育学部附属中学校

安 岡 卓 行

授業の資料を拝見して感じたことは、「地方自治と私たち」の単元構成が非常によく作り込まれている印象が強かったことである。特筆すべきは

単元の指導・評価計画のきめ細かさであり、単元七時間分の授業内容や意図が十分に伝わるものだったことである。単元計画を軽視せず、むしろ盤石にして研究を進めたという意気込みが感じられた。その発想の原点とも言うべきは、指導案の最初の頁に設けられた「小単元構想デザイン」ではないだろうか。フローチャートで「何を学ぶのか」「どのように学ぶか」が軸となり、そこに「何を学んできたのか」が加味される構図が示されている。言い換えれば、「学びのデザイン」を可視化するものだと言えよう。授業者をはじめ、この授業を共同で研究した教師たちが、どのような学びの場を作り上げるかの意識を共有したり、授業の展開や理論研究などに行き詰まりを感じたりした際に、再び立ち返る場所として有効に作用したのではないだろうか。

今回の研究テーマにある「社会を見つめ、社会に関わる」という点について、公民的分野の「地方自治と私たち」は、実践するに理想的な単元であると言える。少子高齢化、交通事情、これからの未来予測など、地域が抱える問題や課題について、宇都宮市の市政をとりまく様々な身近な事例をもとに、生徒は自分事として社会を「見つめ」ることができた。また、どのようにすればそれらの課題を解決することができるかという点について共同して考え、よりよい未来を創るために必要なことは何かを考え、社会に「関わる」視点を養うことができた。このように「社会をみつめ、社会と関わる」授業を創造することの意義を提案する授業であったと感じた。また、本物の題材を用いてオーセンティックに「宇都宮を学ぶ」ことにより、公民的分野で身に

付ける資質・能力を育成するという授業が本時まで連続していた。まさに「宇都宮を学ぶ」ことにより、いつの間にか「宇都宮で学ぶ」という学習が成立していた単元である。

公開された授業実践についても、授業者や生徒に緊張の色こそあれ、焦燥感はさほどに感じられなかった。その理由は、これまでの単元を十分に学び、つなげてきたという自負があったからだと推察する。それぞれの生徒が異なる視点から「本当に『住めば愉快だ宇都宮』にするため」にどのようなことから取り組んでいくのかを考える場面では、これまでの学びの蓄積を班の中で相互に出し合う生徒の姿を見ることができた。静かながらにも、深い学びに至る生徒の姿を感じさせる授業であった。

浜島書店の社会科資料集

教師用サポート DVD(無料)に誌面投影ソフト  
授業で使えるデジタルコンテンツ(解説アニメ・動画など)収録



株式会社 浜島書店 <http://www.hamajima.co.jp>  
〒466-8691 名古屋市中区阿由知通 2-1-1  
TEL 052-733-8040, FAX 052-733-8977

# 第三十七回 関ブロ中社研 千葉大会開催に向けて



千葉大会実行委員長  
千葉県社会科教育研究会

天野良介  
(千葉市立高浜中学校長)

本年十一月二十二日(金)に開催される第三十七回関ブロ中社研千葉大会の開催に向け、千葉県教育研究会社会科教育部会の下、中核として研究提案を担う千葉市中学校教育研究会社会科部会として大会実行委員会を組織。

「変貌する未来を切り拓く社会科学学習」手応えの発見につながる『深い学び』の探求」を研究主題・副題に設定し、地理・歴史・公民の各部会で検証授業を積み重ね、大会における提案性ある授業提案を目指しております。新学習指導要領全面实施を目前に控え、千葉市で十二年ぶりに開催される研究大会を契機に、社会科教育を担う皆さんと、社会科の本質を見据え、改めて社会科の担うべきは何かを問い直す機会としたいと考えております。

言うまでもなく、社会科は生徒の社会認識を育成するための教科であり、社会認識を育成するための基盤は社会的事象に他なりません。従って、生徒を「深い学び」に誘うためには、指導者が如何に適切な社会事象を教材として選び取り、そこから構築できるより高次の社会認識とは何かを明確にすることが前提となります。それを抜きに「深い学び」への到達は不可能だと言っても過言ではありません。

すまい。そこから次なる授業づくりが始まります。課題追求の意欲を内面化する教材提示と投げかけの工夫、教師と生徒あるいは生徒同士による丁寧な対話を引き出す教師の切り返しや支援の工夫、教材を通じた課題追求活動から高次の社会認識に迫れたと生徒自身が自覚できる、周到に構造化された創意ある単元構成等々であります。しかし、繰り返しますが、それはより適切な教材あつてこそ成立します。その意味で社会科はあくまで「内容教科」であり、その根本に立ち返って、新指導要領の具現化が目指されなければなりません。そうして培われた社会認識こそ、変貌する未来を切り拓く力となり、授業を通じて発見した「手応え」こそが、学びに向かう力として将来にわたって人生や社会で「生きる力」となると考えます。何より、子供は勿論、大人もワクワクする授業提案となるよう目論んでおります。更に、全体講演会も、是非とも耳にしてみたいと思つて頂けるよう、旬の話題を提供しようと思つて頂けると幸いです。あわせて、関東全域からお越し下さる皆様のアクセスを考慮し、午前開催の全体会・講演会・レセプションに關しましては、JR京葉線の海浜幕張駅より至近の「アパホテル

&リゾートベイ幕張」にて開催させていただきます。また、午後の三分野授業提案校もその近隣校にて設定し、バスでのピストン輸送を想定しております。海浜幕張駅までは、東京駅から快速で三十分程となります。宿泊を希望される方には同ホテルをご準備させていただく等、遠路おいでいただく皆様にとつて遺漏なきよう努めて参る所存でございます。

さて、今大会が開催される千葉市は明治以降県庁が置かれた県内の中核都市であります。東京湾に面し、広大な干潟の育む海の幸に恵まれた温暖な風土には、縄文の昔から多くの人々が居住し、昨年は加曽利貝塚が史跡の国宝にあたる特別史跡に指定されました。その他市内には史跡指定貝塚が七カ所ある等、まさに「貝塚銀座」の様相を呈しております。

また、千葉市中心部は、源頼朝による武家政権の樹立に多大な功績のあつた両総平氏「千葉常胤」が本拠をおき、中世を通じて下総の中心として栄えた土地でもあります。また、戦後は首都圏を支える産業の中核とすべく大規模な海岸の埋め立てにより工場・住宅団地等が造成されました。今回の会場となる海浜幕張地区もそうした地域にあたり、幕張副都心として多くの大企業本社機能、幕張メッセ、そして千葉ロッテマリーンズ本拠スタジアム等が集中する等、周辺住宅地ともあわせ、近未来を感じさせる都市空間となっております。

最後に、このような貴重な機会を頂いた関ブロ中社研中学校社会科教育研究会 竹原真会長をはじめ、関係各位に感謝申し上げます。ともに、次年度「いい夫婦」の日に、是非とも歴史の街「千葉」に足をお運びいただけますよう祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

### 埼玉県の研究概要

埼玉県中学校研究会社会科研究部

事務局長 二 瓶 剛

#### 1 研究主題

「追究する力を育てる社会科学学習」主体的・協働的に学ぶ学習の充実」

本研究会では、次の二〇二三年度の関プロ大会を見据え、研究推進委員会を立ち上げた。平成二十九年年度関プロ埼玉大会(川越市開催)の成果を生かし、研究主題の設定に向けて研究を推進している。

#### 2 研究会事業

##### (1) 地域学習研修会

市町村や埼玉県の社会的事象を授業で扱う際に必要な基礎的内容を研修し、教員の資質向上を図る目的で実施している。今年度は、七月三十一日(火)にさいたま市大宮区にある鉄道博物館を会場に、鉄道博物館の成り立ちや、会場に所狭しと設置されている鉄道についての説明を受けたり、実際に鉄道に乗りしたりした。埼玉県の誇る博物館の一つである鉄道博物館での研修により、地域の交通の発達について学ぶことのできる研修を、有意義に受けることができた。

##### (2) ブロック別授業研究会

研究主題のもと、関プロ埼玉大会の成果と課題を生かし、東・西・南・北・さいたま市全ての地区で研究授業・協議を実施した。  
○十月三十一日(水)さいたま市立大谷場中学校 公民的分野 私たちと政治・国の政治の仕組み」  
○十一月一日(木) 吉川市立中央中学校 地理的分野 「日本の諸地域・関東地方」

○十一月二十八日(水) ふじみ野市立福岡中学校 地理的分野 「日本の諸地域・近畿地方」  
○十二月七日(金) 戸田市立笹目中学校 歴史的分野 「中世の日本・鎌倉時代」  
埼玉大学教授 大澤 利彦先生講演会

##### 「追究する力を育てる社会科学学習」

○十二月十一日(火) 本庄市立本庄西中学校 地理的分野 「世界の諸地域・アジア州」

##### (3) 社会科基礎学力調査

思考力・判断力・表現力を測る問題より、生徒の現状を調査し、指導の改善の資料とすることを目的に、県内五地区から選出の委員で問題を作成し、十月〜十一月に問題作成を、十二月に分析を実施した。三年間かけて研究し、冊子として刊行する予定である。今年度は一年目であり平成二十九年に告示された新しい学習指導要領解説を基に作成を進めている。

##### (4) 現地研修会

平成三十一年二月十五日(金)にさいたま市にある造幣局埼玉博物館を会場に、学芸員による展示案内及び講演会を実施した。

### 横浜市の研究概要

横浜市中学校教育研究会社会科部会

会長 濱 本 貴 康

#### 1 研究主題

「よりよい社会を実現する力を育む社会科学学習」社会的な見方・考え方を働かせた深い学びをめざして」今年度は、生徒が自分の考えと他者の考えをグループワークなどの協働的な活動により比較、検討することで、課

題に対する思考を深め、その解決について判断していくことができるかを検証した。

#### 2 研究の成果と課題

二度の研究授業を通して、横浜市全体に研究の成果を広めた。授業づくりにおいて単元を貫く問いを設定することが、生徒が意欲的に授業に取り組む要因となることを示した。しかし、それが「深い学び」につながるどうかは、さらに追究を深め、「社会的な見方・考え方」を生かした学習課題の設定についても研究を進めていく必要がある。

#### 3 研究会事業

##### (1) 春季講演会 五月九日(水)

文部科学省 永田 佳之 調査官 「持続可能な社会の創り手の育成とこれからの社会科学授業に必要なこと」

世界的な視野から日々の授業を見直す」  
冬季講演会 一月三十日(水)  
横浜国立大学 重松 克也 教授

「新学習指導要領全面实施に向けて社会科が目指す授業」  
夏季研修講座 八月二日(水)  
地理歴史講座 田村 泰治 先生

「中世の三浦氏について」  
指導技術講座  
東京学芸大学 村山 正子 講師

「社会科で現代的課題をどのように取り上げるか」  
防災教育を例に、新聞を活用した授業構想

##### (3) 巡検

五月二十六日(土) 横浜みなと巡検  
八月二十三日(水) 三浦・横須賀巡検

(4) 社会科生徒研究発表会・作品展示  
十二月十五日(土)〜一月七日(日)

横浜歴史博物館



(5) 授業研究会

九月二十六日(水) 高嶺直己 教諭  
「私たちの生活と現代社会」  
十一月二十八日(水) 相磯達夫 教諭  
「世界の諸地域 北アメリカ州」

東京都の研究概要

東京都中学校社会科研究会副会長  
練馬区立大泉第二中学校長  
関 基 雄

1 研究主題と研究の取り組み

研究主題

「グローバル化する社会を生き抜く」  
「これからの生徒を育てる社会科学習」  
本研究会では二〇二一年度の全中社研東京大会に向けて研究部を中心に三分野の専門委員会と連携しながら研究に取り組んでいる。グローバル化する社会で求められる力とは何かをここ何年間様々な議論を重ねた結果、「予測力」、「対応力」、「共生力」、「発信力」と捉え、新学習指導要領が示す「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「学びに向かう人間力・人間性」と関連づける作業を現在行っている。研究の骨格が定まったことで、「研究副主題」と「目指す生徒像」をどのように表現していくのかを今年度内で大筋決定できるように研究を進めている。

2 研究事業

(1) 総会・講演 五月二十九日  
演 題 「新中学校学習指導要領  
社会科の改訂の要点  
」地理的分野を中心に」

講師 文部科学省 初等中等教育局  
視学官 濱野 清 先生

(2) 社会科地域巡検 八月九日  
太田道灌館跡・石神井城跡見学

(3) 夏季研修会 八月二十四日  
演 題 「新学習指導要領の理念を

踏まえた歴史的分野の授業構成」  
講 師 専修大学商学部 特任教授

(4) 社会科指導技術向上研修 齋藤 博志 先生  
日 時 平成三十一年一月二十八日

授業者 山下 大輔 先生

(5) 三分野合同研究発表会  
平成三十一年二月二十二日  
（小平市小平第五中学校 主幹教諭）

神奈川県の研究概要

県立中学校教育研究会社会科部会長  
横須賀市立田浦中学校長  
島 川 浩 一

1 研究テーマ

今年度の研究は『社会的な見方・考え方を働かせた「思考力・判断力・表現力」を身に付ける単元の工夫』をテーマに研究を行ってきた。

2 研究事業

- (1) 地区別巡検  
○ 東海道かわさき宿交流館(五月八日)  
○ 逗子市・長柄桜山古墳群(七月三日)  
○ 藤澤浮世絵館(十一月二十一日)
- (2) 地区別授業研究大会
- ①日 時 平成三十年十一月二日(金)

②会 場 座間市立座間中学校

③授業者 地理的分野 松尾 誠(西中)  
歴史的分野 森雄二郎(南中)  
公民的分野 佐藤 芳昭(栗原中)

④基調提案 將基面 武(東中)

本大会のテーマである「思考力・判断

力・表現力を育てる授業の工夫」対話

的な学びを生かして」を基にして全市

で社会科に対するアンケート調査を

実施しそこから見えてきた内容を分析し、

理解型・説明型・意思決定型・問題解決

型の授業を展開することとした。

⑤講 演 馬場 悠男 氏  
（国立科学博物館名誉研究員）

人類の進化と思いやりというテ

マでの講演であった。

(3) 幹事会の実施 六月・七月・十月・十一

月・二月の五回の幹事会を各地区で

開催している。

(4) 講 演  
①日 時 平成三十一年二月十九日(火)

②場 所 横須賀市立田浦中学校

③講演者 高川 智博 氏(港湾空港技術研究所

研究を行っており、世界で唯一人工的な大

きな波を作り出す装置を持ち、津波に対

する研究を行っている。防災・減災の視

点から本県の地震・津波に関する講演を

いただいた。



### 群馬県の研究概要

群馬県小学校中学校教育研究会中学校社会科部会  
群馬大学教育学部附属中学校  
事務局長 弥 城 淳

#### 1 研究テーマ

今年度の研究は、「主体的に学ぶ社会科教育の展開く自ら学び、自ら考える力を育む授業づくり」をテーマに、「主体的、対話的、深い学び」の実現を目指して研究を行った。

#### 2 研究事業

##### (1) 地区別巡検

①日 時 平成三十年八月二日(木)

②担 当 吾妻郡

③内 容 ・ 水没地域の見学

- ・ 八ッ場ダム工事現場の見学
- ・ 八ッ場ダムの概要説明

平成三十一年度の完成を目指し工事を進めている八ッ場ダムの建設現場を見学した。水没した地域や工事中にしか見られない場所の見学もすることができた。水害から守り、利根川の治水事業の一環で多目的ダムとして建設を進めてきた八ッ場ダム。自然災害の多い日本で、どのように自然環境と向き合っていくべきなのかを考えていく上で、地域の教材として活用することができる施設である。



##### (2) 地区別授業研究大会

①日 時 平成三十年十月十九日(金)

②会 場 藤岡市立小野中学校

③授業者 齋藤 博幸 教諭

(藤岡市立小野中学校)

④指導助言 落合 清貴 先生

(藤岡市教育委員会指導主事)

地理的分野の「近畿地方」を題材に、京都市の歴史的景観の保全と住民の願いや利便性を両立するためには、どのようなことが必要なのかを考えていった。実際に行われている保全活動の効果と影響について、資料を読み取った後に実際の方策を考え、グループや学級全体で多面的・多角的に考えを深めていった。授業研究会ではワークショップ形式で参加者が議論を深め、有意義な研究会となった。



#### (三) 提案発表

○担 当 桐生市・みどり市

#### (四) その他事業

○理事会開催 (五月・二月)



### 事務局 便り

事務局長 小島 千恵  
(東京都町田市立堺中学校 副校長)



平成三十年度の関東ブロック中学校社会科教育研究大会は、栃木県宇都宮市で開催されました。今年度は大会主題を『「社会を見つめ、社会と関わる力を育む社会科学習の創造」く深い学びの実現を目指して』と設定し、各分野での研究が積み重ねられてきました。その成果が、全体会・公開授業・分科会の活気溢れる充実した様子から伝わってきました。詳しい様子は、本会報の報告をお読みいただければと思います。栃木大会成功のために御尽力いただいた、山本 伸夫会長様をはじめとする栃木県の皆様に心からの感謝を申し上げます。

大会当日の公開授業においては、地理的分野・歴史的分野・公民的分野ともに、取り上げた題材に対して深い学びを実現していくためにはどのような方法で迫っていけばよいのかを見せたいいただきました。新学習指導要領においては、生徒たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにしていくことが重要であるとし、そのために、学習の質を一層高める授業改善への取組を活性化させなければなりません。その一歩となる貴重な機会となり、これからの社会科教育に求められることを改めて考えることができましたのではないのでしょうか。

最後になりましたが、来年度の関東ブロック中学校社会科教育研究大会は、千葉県幕張で開催されます。大会主題は、「変貌する未来を切り拓く社会科学習」く手応えの発見につながる『深い学び』の探究となつていきます。十一月二十二日(金)に、皆様にお会いできることを楽しみにしています。